

動作検証の標準的検証項目

(1) 実機検証における検証項目

項番	検証項目			検証概要
	大分類	中分類	小分類	
1	機能性	AP 接続	画面系	検証環境の端末を接続することで、AP の機能が利用できること。
2				AP の登録・更新・削除等の処理が、正常に動作すること。
3			帳票系	検証環境のプリンターにおいて、帳票が出力できること。
4			バッチ系	AP のバッチ処理が正常に動作すること。
5		データ連携	-	AP の各機能間でのデータが連携できること及び AP と実環境のソフトウェアのデータが連携できること。また、その処理が正常に動作すること。
6		セキュリティ	アクセス管理・認証	AP への適切なアクセス管理ができること。シングルサインオンに対応している場合には、シングルサインオンを利用してログインできること。
7			不正監視	AP でログの取得、ログの保管、不正監視を行っている場合、正常に動作すること。
8			マルウェア対策	想定するマルウェアの感染対策ソフト(AP が Web アプリケーションの場合には、WAF を含む。) 及びマルウェア対策ソフト導入時に AP が正常に動作すること。
9			Web 対策	AP が Web アプリケーションの場合、Web アプリケーション特有の脅威、脆弱性に関する対策が正常に動作すること。
10		運用	運用監視	AP に運用監視機能がある場合には、正常に動作すること。
11			時刻同期	AP が日付又は時刻を保持している場合には、時刻同期が正常に動作すること。
12			異常検知	AP に異常検知機能がある場合には、正常に動作すること。
13	性能・拡張性	性能目標値	レスポンス	実施計画に記載の想定業務量をもとに、検証環境の方式毎にオンラインシステム及びバッチに係るレスポンスタイムを計測すること。
14			スループット	実施計画に記載の想定業務量をもとに、検証環境の方式毎にオンラインシステム、バッチ及び帳票印刷に係るスループットを計測すること。
15		リソース拡張性	-	CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク、サーバ処理能力増強時に AP の機能性を損なわないこと。また、リソース拡張による効果を確認すること。
16			-	新たに利用団体が増える場合に、既存 AP の機能及び性能に影響を与えることなく、導入できること。(マルチテナント方式)
17	運用・保守性	通常運用	バックアップ	実施計画に記載の想定業務量をもとに、バックアップの取得時間等を確認する。
18			リストア	取得したバックアップをもとに、正常にリストアできること及びリストア時間及び工数を確認する。
19		保守運用	OS 及びミドルウェアのパッチ適用	保守回線を用いて、導入する OS 及びミドルウェアのセキュリティパッチ等を正常に適用できること。
20			AP の保守	保守回線を用いて、導入済みの AP の保守及び AP を新規に追加できること。

項番	検証項目			検証概要
	大分類	中分類	小分類	
21				試験環境でテストを行った AP を本番環境に正常に適用できること。
22	移行性	移行方式	システム展開方式	実施計画に記載のデータ量をもとに、移行方式(ネットワーク又は媒体)を検討し、実施すること。また移行に係る時間及び工数を確認すること。

(2) 机上検証における検証項目

項番	検証項目			検証概要
	大分類	中分類	小分類	
1	可用性	継続性	業務継続性	サービス切替(想定できる障害に対して、対策を施すことにより、業務再開までに要する時間を指す。)に係る時間を検討すること。
2			目標復旧水準	業務停止を伴う障害が発生した場合に設定可能な復旧地点、復旧時間、復旧レベルを検討すること。
3			稼働率	FMC-IaaS 基盤の障害を除き、FMC-IaaS 基盤上にシステムを構築した場合に、達成可能な稼働率を検討すること。その際の条件等があれば、合わせて提示すること。
4	性能・拡張性	性能品質保証	性能	FMC-IaaS 基盤上にシステムを構築した場合に、達成可能な性能目標値を検討すること。その際の条件等があれば、合わせて提示すること。(可能であれば。)